



MOTHER VEGETABLES PROJECT

ホワイトペーパー

地球最初の生命体による地球再生プロジェクト

Version 1.0.0

MOTHER VEGETABLES FOUNDATION
2025年9月

目次

1. エグゼクティブサマリー	3
2. チームメンバー	5
3. パートナー・提携組織	6
4. プロジェクト詳細	12
5. トーケン情報	17

1. エグゼクティブサマリー

プロジェクトの使命

MOTHER VEGETABLES PROJECTは、35億年前の地球最初の生命体「マザーベジタブル」を全世界に供給する。それを生成する「マザーベジタブルファクトリー」はCO₂を削減しながら地球と生命の生きる環境を改善していくことを目的とします。

地球環境の改善

マザーベジタブルファクトリーを世界各地に展開することで、マザーベジタブルを生産し、8つの産業分野に供給します。このプロセスにおいて、各施設は24時間365日CO₂を吸収し酸素を生成することで大気を浄化し、同時に生産されるマザーベジタブル製品は人間と生物の健康向上に直接貢献します。この好循環により地球環境が改善され、持続可能な未来が実現されていきます。

さらに、驚くべきはマザーベジタブルのCO₂を吸収する効率は天然芝と比較するとおよそ700倍となるため、世界中に建設できれば地球温暖化問題を急速に解決できる可能性を秘めています。

建設すればするほど地球が健康になる

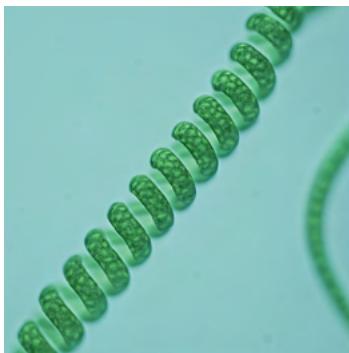
- 1つの施設 = 24時間365日のCO₂吸収・酸素生成
- 10の施設 = 10倍の環境改善効果
- 100の施設 = 地域全体の空気質向上
- 1000の施設 = 地球規模の環境再生



マザーベジタブル培養施設「マザーベジタブルファクトリー」

生命の生きる環境の改善

地球最初の生命体とは、地球の最初の生物を創った「マザーベジタブル」の構造を分析して現在に再現した生命体を示します。そのマザーベジタブルを核とした培養施設「マザーベジタブルファクトリー」が世界各地に建設されることで、8つの産業分野への展開が可能となります。食品分野では栄養価の高いスーパーフード、医薬品分野では天然由来の治療薬成分、工業品分野では環境に優しい新素材、養殖分野では水質浄化・天然飼料、農業分野では土壌改良・成長促進、バイオマス分野ではクリーンエネルギー、エネルギー分野では再生可能燃料が生産されます。



地球最初の生命体「マザーベジタブル」

マザーベジタブルがもたらす8つの産業アプローチ

医薬品分野：

自然治癒力の支援

フィコシアニン、フコイダ
ン、アスタキサンチン、
EPA・DHA：天然由来の治
療成分。副作用の少ない治
療薬：身体に負担をかけな
い医療の実現。

工業品分野：

地球上に優しい製造

バイオプラスチック、新素
材：石油依存からの脱却。
持続可能な化学原料：環境
負荷ゼロの工業製品。

養殖分野：

海洋環境の回復

水質浄化システム：汚
染された水域の自然回
復。天然飼料：化学飼
料に依存しない健康的
な養殖。

農業分野：

土壌の再生

バイオスティミュラン
ト：化学肥料を使わな
い豊かな土壌作り。土
壌改良剤：疲弊した大
地の自然回復力向上。

バイオマス分野： クリーンエネルギー

バイオディーゼル、バイオ
エタノール、バイオガス：
化石燃料からの完全脱却。
カーボンニュートラル：
CO₂排出量実質ゼロの実
現。

エネルギー分野： 持続可能な未来

液体・気体燃料、電力生
成：再生可能エネルギーの
安定供給。エネルギー自
給：各地域でのエネルギー
独立支援。

食品分野： 生命力の向上

スピルリナ等の高栄養
スーパーフード：人類の
栄養状態を根本から改
善。機能性食品原材
料：病気予防と健康寿
命の延伸に貢献。

FMCG分野： 日常生活の革新

洗剤、シャンプー、化
粧品、衛生用品：環境
負荷を最小限に抑えた
生分解性の高い日用
品。持続可能な原材料
により、人と地球に優し
い毎日を実現。

2. コアメンバー



ジャグ・カウラ (Jag Kaurah)

Algae International Berhad 創設者・最高技術責任者

2006年より微細藻類技術開発に専念し、2008年に業界を変革する画期的特許

【WO2008105649A1】を取得、同年にAlgae International Berhadを設立。藻類バイオマス生産コストの劇的削減を実現し、気候制御透明建物での多層培養システムにより、藻類と野菜の統合生産を可能にしています。



エロール・ペレラ (Errol Perera)

Revoganix株式会社 代表取締役 / ASEAN持続可能農業アドバイザー

持続可能農業、水産養殖、微生物学分野における35年以上の専門知識を有するペレラ氏は、ASEAN事務局のチーフコンサルタントおよびスリランカ水産大臣の公式アドバイザーを歴任しています。アジア全域における有機農業の発展と革新的水産養殖システムに及ぶ広範囲な経験により、貴重な地域専門知識と政府関係を提供しています。

3. パートナー・提携組織

政府・公的機関



BioNexus ステータス企業（マレーシア）

マレーシア政府認可の特別クラス・バイオテクノロジー企業としての認定により、バイオテクノロジー商業化の迅速化のための実質的な財政的インセンティブ、法的柔軟性、制度的サポートへのアクセスを確保しています。



ASEAN（東南アジア諸国連合）

持続可能な水産養殖および農業セクターにおけるインドネシアからの公式承認および支援により、東南アジア全10カ国にわたる環境に責任を持ち、経済的に実行可能で、社会的に包摂的な食料システムというASEANの共通ビジョンに貢献しています。



ANGKASA（マレーシア政府機関）

Angkatan Koperasi Kebangsaan Malaysia Berhadとのパートナーシップにより、16,000以上の協同組合と730万人の組合員を代表する協同組合の全国最高機関との連携を実現。資産1,596億、収益455億を超える規模を有しており、マレーシアの社会経済開発における「第三セクター」として重要な役割を果たしています。国内的にも国際的にも信頼性が高く、国際協同組合同盟およびASEAN協同組合機構のメンバーです。私たちは、化学物質を含まない持続可能な食品を会員に提供するというイニシアチブを供給し、支援するために協力し、プロジェクトの展開を支援してくれました。



インベスト・セランゴール（政府機関）

セランゴール州政府が提供する優遇支援エコシステムのメンバーです。このエコシステムには、効率的な行政プロセス、カスタマイズされたインセンティブパッケージ、業界別プログラム、ネットワークやインフラへのアクセスが含まれています。これにより、マレーシアで最も経済的に活発な州の一つで、プロジェクトの成功を促進することを目指しています。



NEGERI PAHANG (パハン州政府)

マレーシア、パハン州の投資・産業・科学・技術・イノベーション委員会の委員長（パハン州政府）は、特に収穫量の増加、効率、生産性の向上のための技術と近代的な農業手法の使用を通じて、パハン州の農業セクターの経済発展を強化するMother Vegetablesへの提案された投資に対する支援を私たちに与えてくれました。パハン州の投資・産業・科学・技術・イノベーション担当執行委員会は、土地、資本、ネットワークを連携させて、大規模な持続可能な農業イニシアチブを加速させる触媒的な役割を果たしています。このパートナーシップは、民間セクターの投資とマレーシアの国家食料安全保障目標との連携を強化します。

YTAA (Yayasan Tengku Abdul Aziz Sultan Abu Bakar)



YTAAは社会的影響のチャネルとして機能し、サブスクリプションの貢献が農村開発、教育イニシアチブ、ペカンの水田プログラムなどのパイロットプロジェクトに直接資金を提供することを保証します。サブスクリプションを慈善寄付として法的に認めることにより、YTAAはコミュニティをカバーするだけでなく、包括的な繁栄という使命を強化します。

YTAAは支援を示し、地域内の食料安全保障を提供するためにMother VegetablesプロジェクトでAngkasaとさらに協力しています。YTAAは、Tengku Hassanal Badyr Bin YAM Tengku Abdul Azizによって率いられています。

学術・研究機関



ノッティンガム大学

大学構内における3エーカーの施設をMother Vegetables事業に提供する戦略的協力体制を構築し、研究開発の発展のため尊敬されるバイオテクノロジーチームによるサポートを受けています。



シンガポール国立大学 (NUS)

農業や水産養殖、生物的防除剤、製品開発の分野において、科学的専門知識と革新を提供するパートナーシップを結んでいます。私たちの活動の基盤となる科学を強化し、イニシアチブが最先端の研究に基づいていることを確保することが重要です。彼らの支援を受けて、特に私たちの主力プロジェクトであるMother Vegetablesプロジェクトを通じて、持続可能なソリューションの開発と商業化を加速することが可能になります。

マラヤ大学（UM）



UNIVERSITI
MALAYA

マレーシアの最高学府であるマラヤ大学と研究開発分野で連携しています。同大学の優れた学術的知見と科学技術の専門性により、私たちの技術革新が大きく前進しています。この産学連携を通じて、持続可能な発展と社会実装を目指した研究開発を共同で進めており、Mother Vegetablesプロジェクトの科学的基盤を強化しています。

マレーシア科学大学（USM）



微細藻類研究の分野で国際的に高い評価を受けているマレーシア科学大学と共同研究を実施しています。同大学の専門知識と研究施設を活用し、微細藻類の可能性を最大限に引き出す技術開発を進めています。持続可能な社会の実現に向けて、基礎研究から応用開発まで幅広い分野で協力関係を構築しています。

マレーシア国民大学（UKM）



Mother Vegetablesプロジェクトの革新性と持続可能性に高い関心を示していただき、全面的な支援を受けています。現在、大学キャンパス内にMother Vegetables培養施設を設置する計画が進行中で、教育・研究・社会実装を一体化した新しいモデルの構築を目指しています。科学技術の発展と社会課題の解決に向けて、包括的な産学連携を推進しています。

マヒドン大学（タイ）



タイを代表する研究大学と共同で、家畜飼料における生物的防除剤（BCA）の革新的な応用研究を実施しています。畜産分野における成長促進と疾病耐性向上を目的とした実証実験を進めており、東南アジア地域の畜産業の持続可能な発展に貢献しています。

明治大学（東京）



体育会競技者に対してMother Vegetables関連製品を提供するスポンサーシップ協力により、持続可能な栄養ソリューションを通じたスポーツパフォーマンスの支援を実施しています。

行政・地方自治体



食品産業・商品・地域開発省（M-FICoRD）サラワク州

包括的な技術分析提案：サラワク州バタンアイ貯水池におけるティラピア育成システム。地域の水資源を活用した持続可能な養殖モデルの確立と地域経済の活性化を目指しています。



河津町（日本）

日本におけるMother Vegetablesを核とした包括的な事業提携による海洋産業の振興。



静岡県（日本）

海洋産業発展および持続可能技術実装のための包括的な県レベル支援システムを提供しています。



東京都板橋区（日本）

海洋産業発展および持続可能技術実装のための包括的な県レベル支援システムを提供しています。



農林水産省水産庁（日本）

日本における海洋産業の振興とMother Vegetablesの導入支援

国際機関



東アジア経済研究所（ERIA）

ASEAN持続可能農業に関する地域ガイドライン実施のための実践的行動計画および持続可能な農業食料システムに関する予備調査研究において協力しています。



日本-ASEAN統合基金

水産養殖および畜産セクターにおける抗菌剤耐性（AMR）対策としての生物的防除剤（BCA）応用に関する実証プロジェクトへの支援を提供しています。

その他の提携組織・プロジェクト



Revoganix（レヴォガニクス）

ASEANパネル企業として認められており、ASEAN持続可能な農業・水産養殖アカデミーの設立や地域のBCA（生物的防除剤）生産イニシアチブなど、ASEANから直接授与された複数の影響力の大きいプロジェクトを任せています。ASEAN以外では、Revoganixはサラワク州のコンサルタントを務め、タイ中央政府の水産養殖セクターと緊密に協力するなど、他の戦略的関与も行っています。この実績のある実績により、RevoganixはMother VegetablesズプロジェクトでASEANを支援し、提携できることを誇りに思い、地域全体のコミュニティに利益をもたらす農業と水産養殖のための堅牢で持続可能なモデルを構築するために、その専門知識とリーダーシップを貢献しています。



バイオエコノミーコーポレーション

農業廃棄物をクリーンな食品に変えるプロジェクトエンゲージメント。持続可能なバイオエコノミーの推進と廃棄物の有効活用を通じた循環型経済の実現に取り組んでいます。



テマセクポリテクニック・水産養殖イノベーションセンター

ティラピア飼料における生物的防除剤（BCA）の革新的な応用：オープンpondタンク水産養殖における成長と耐病性の向上。最新の養殖技術と天然由来の防除剤を組み合わせた革新的な養殖システムの開発を推進しています。



Cropabl（マレーシア）



20年以上にわたって非侵襲的かつ無化学物質の農業に取り組んできたパイオニア的企業であり、食料安全保障と持続可能な農業実践を推進するために政府機関との強力なパートナーシップを築いてきました。確立されたグリーンファーミング技術を活用し、現在はマレーシアのMOTHER VEGETABLESを支援し、モジュール型農業ソリューションの開発に協力しています。この取り組みの一環として、MOTHER VEGETABLESと緊密に連携し、ペラ州タンジョン・マリムにおいて10エーカー規模の旗艦プロジェクトを実施し、食料安全保障と環境保全に関する国家目標に沿った持続可能な食料生産のモデルを創出します

Sabah Invest



サバ州政府とのパートナーシップのもとでMOTHER VEGETABLESプロジェクトの実施を強力に支援する意向を示しています。この取り組みは、輸入食品への依存度が高いサバを、自給自足が可能で輸出余剰を生み出せる州へと変革することを目指しています。MOTHER VEGETABLESの先進的な持続可能農業技術を採用することで、このプロジェクトは食料安全保障を強化し、外部のサプライチェーンへの依存を減らし、サバを農業・食品生産の地域的リーダーへと押し上げます。この変革は、地域のレジリエンスを高めるだけでなく、輸出市場の開拓を通じて新たな経済的機会を創出し、州の長期的な繁栄と持続可能性に貢献します。

Healcom Foundation



MOTHER VEGETABLESの取り組みに賛同し、地域社会に最高品質で健康的かつ持続可能に栽培された食品を届ける可能性を高く評価しています。財団はその広範な会員ネットワークを通じて、認知度向上の推進、生産活動の支援、販売チャネルの強化に積極的に関与します。MOTHER VEGETABLESと提携することで、Healcom Foundationは公衆衛生と栄養改善という自身の使命を推進するだけでなく、地域産の無化学食品の持続可能な市場を創出し、消費者と地域社会全体に利益をもたらします。



全国姉妹漁業振興協議会株式会社

河津町との連携による海洋事業開発とMother Vegetables事業の推進。全国の漁業組合の連絡窓口を実施。

日本PTA



日本では、小学生の保護者600万人がPTAに登録されています。

保護者と教師の会プロジェクト：全国の選ばれた小学校でオリンピック選手とのイベントを開催し、子供たちがマザーベジタブルを体験し、栄養について学びます。これらのプログラムは、将来の研究者を育成し、学校給食の基準の改善を促すため、PTAから高く評価されています。

LEON



アパレル雑誌LEONの不動産部門：20年以上の歴史を持つ日本の紳士向けアパレル雑誌で、40代から50代の富裕層をターゲットとし、月間約1,000万ページビューを誇ります。

プロジェクト：彼らは日本全国に高級宿泊施設を建設する計画で、そこには家族がマザーベジタブルを体験し、地元の収穫物で作られた食事を楽しめるMother Vegetables施設が併設されます。

JTB総合研究所



JTBツーリズムリサーチ＆コンサルティング プロジェクト：日本最大の旅行代理店であり、世界最大級の旅行代理店の1つ。海洋産業の推進とエデングリーン関連製品の事業開発支援のためのパートナーシップ

九州電工



日本の大手電力会社で藻場（海藻の群落）を造成することで、魚貝類の住処としての機能や水質浄化、さらにはCO₂固定機能を活かした藻場再生の実用化研究に2001年度から取り組んでいます。MOTHER VEGETABLESを活用したバイオマスにより生産性の向上を検討している。

黒井漁業協同組合

黒井漁業

日本の下関市に位置する漁業協同組合。磯焼けによる空ウニの大量発生や養殖に対して課題を持っておりMOTHER VEGETABLESを活用することで局所的な磯焼け解決や効率的な養殖を進めている。

4. プロジェクト詳細

イントロダクション（既存事業の説明）

MOTHER VEGETABLES PROJECTの主幹事であるAlgae International Berhad (AIB) 社は2007年から地球最初の植物である藻類の研究を日本でスタートし、現在世界中に8カ国、70拠点に展開しています。AIB社における藻類の研究はゲノム解析まで完了し培養のメカニズムを確立させ、培養元となる藻類を「マザーベジタブル」と名付けました。豊かに生きられる持続可能な社会を築くためには、限りある化石資源への過度な依存から脱却することが必要です。その鍵として注目されているのが、光合成という営みを通じて太陽エネルギーを効率的に蓄えて多様な有機物を生み出す藻類です。藻類は、そのまま食品や飼料となるだけでなく、抽出した原料から医薬品、燃料、プラスチック、繊維など様々な分野への応用が可能です。さらに、砂漠や荒地のような農業利用が難しい土地でも、太陽光と少量の水で培養でき、陸上植物と比較して物質生産効率が圧倒的に高い特性を持っています。

2025年夏日本にて開催されている「2025年日本国際博覧会」通称「大阪・関西万博」の「日本館」では藻類の可能性について展示されており、今後世界中で注目される分野です。



AIB社の「マザーベジタブル」は多様な産業応用が期待されており、以下の8つの分野にて展開が始まっています。

分野	タイトル	内容・効果
1. 食品分野	生命力の向上	スピルリナ等の高栄養スーパーフードにより人類の栄養状態を根本から改善します。機能性食品原材料は病気予防と健康寿命の延伸に貢献します。
2. 医薬品分野	自然治癒力の支援	フィコシアニン、フコイダン、アスタキサンチン、EPA・DHAなどの天然由来の治療成分を生産します。副作用の少ない治療薬により、身体に負担をかけない医療の実現を目指します。
3. 工業品分野	地球に優しい製造	バイオプラスチックや新素材の開発により石油依存からの脱却を実現します。持続可能な化学原料により環境負荷ゼロの工業製品を生産します。
4. 養殖分野	海洋環境の回復	水質浄化システムにより汚染された水域の自然回復を促進します。天然飼料により化学飼料に依存しない健康的な養殖を実現します。
5. 農業分野	土壌の再生	バイオスティミュラントにより化学肥料を使わない豊かな土壌作りを推進します。土壌改良剤により疲弊した大地の自然回復力を向上させます。
6. バイオマス分野	クリーンエネルギー	バイオディーゼル、バイオエタノール、バイオガスの生産により化石燃料からの完全脱却を目指します。カーボンニュートラルによりCO ₂ 排出量実質ゼロを実現します。
7. エネルギー分野	持続可能な未来	液体・気体燃料、電力生成により再生可能エネルギーの安定供給を実現します。エネルギー自給により各地域でのエネルギー独立を支援します。
8. FMCG分野	日常生活の革新	藻類由来の天然成分を活用した洗剤、シャンプー、化粧品、衛生用品：環境負荷を最小限に抑えた生分解性の高い日用品。持続可能な原材料により人と地球に優しい毎日を実現。

藻類培養技術を用いた均一化生産システムの施設は太陽光発電および蓄電システムを有しており、自社エネルギーにて24時間365日稼働し、CO₂の安定的かつ効率的な吸収を実証済みであり、技術の商業化に向けた確固たるエビデンスを有しています。

プロジェクト概要と成長戦略

本プロジェクトは、均質化された藻類培養技術を基盤とした生産工場を世界各国に自社拠点として構築・稼働させることで、事業モデルの実証（デモンストレーション）を行います。これらの実証施設が安定稼働することにより、生産システムの信頼性と商業的価値が実証され、グローバル市場における採用・導入の急速な拡大が期待されます。

藻類を活用した各種製品の生産工程では、大気中のCO₂を効率的に吸収し、同時にO₂を排出します。当社の均質化生産システムは、CO₂吸収量を安定的かつ継続的に維持でき、24時間365日の稼働を実現します。生産拠点数の増加は、そのままCO₂吸収総量の増大へと直結し、環境負荷低減への貢献度を飛躍的に高めます。

資金調達とトーケンエコノミクス

当社は、Initial Exchange Offering (IEO) およびトーケンの市場流通を通じて資金調達を実施し、その資金を生産拠点の新規建設・拡張に充当します。

保有者は、当プロジェクトが発行する「MOTHER VEGETABLES Token (MVT)」をスマートコントラクトに基づくステーキングプールへ預け入れることで、当社生産施設において実際に吸収されたCO₂量に連動したNFTを受け取ることができます。このNFTは、CO₂吸収の成果をブロックチェーン上で透明性高く証明するデジタルアセットであり、ステーキング参加者へのリワード（返礼）として付与されます。

NFTの流通と価値創造

発行されるCO₂吸収量連動型NFTは、提携およびオープンなマーケットプレイスにおいて自由に売買可能です。これにより、NFTは単なる環境貢献の証明にとどまらず、二次市場における取引価値を持つ資産として機能します。

本仕組みにより、投資家は環境価値の創出と経済的リターンの双方を享受でき、また当社は資金循環を通じて生産能力を拡大し、地球規模でのCO₂削減効果を加速させます。

本プロジェクトが解決する課題

1. 社会的課題

【課題】

- ▶ 気候変動への関心は高まっているものの、個人・企業が直接的にCO₂削減に参加できる仕組みが不足している。
- ▶ 環境貢献活動の成果が定量化されず、一般社会に正しく認知されにくい。
- ▶ 環境テクノロジーへの投資機会が限定的で、一般投資家の参入障壁が高い。

【解決策】

- ✓ ステーキングとNFTを通じて、誰でもCO₂削減活動に経済的に参加できる分散型プラットフォームを提供。
- ✓ ブロックチェーン上にCO₂吸収量を記録し、環境貢献を可視化・証明。
- ✓ 小口投資から参加可能な形で、環境関連ビジネスへの投資領域を拡大。

2. 経済的課題

【課題】

- ▶ 再生可能資源・環境保全技術の普及には多額の初期投資が必要であり、資金調達が課題。
- ▶ 環境貢献が直接的な収益モデルに結びつかず、事業の持続可能性が確保しにくい。
- ▶ カーボンクレジット市場は複雑かつ閉鎖的で、小規模事業者や個人が参加しづらい。

【解決策】

- ✓ IEOおよびトークンエコノミクスを活用した国際的な資金調達スキームを構築。
- ✓ NFTを活用し、環境価値をデジタル資産として市場取引可能にすることで、持続的な収益源を確保。
- ✓ オープンかつ透明性の高いCO₂削減価値取引の仕組みを提供し、広範な市場参加を促進。

3. 環境的課題

【課題】

- ▶ 世界的なCO₂排出量増加による地球温暖化の加速。
- ▶ 自然環境によるCO₂吸収能力の限界（森林伐採・土地利用変化による吸収源の減少）。
- ▶ 現行のCO₂削減プロジェクトは地域限定的で、グローバルスケールでの即効性に欠ける。

【解決策】

- ✓ 藻類培養技術による24時間365日の安定的なCO₂吸収システムを世界各地に展開。
- ✓ 均一化生産システムにより、吸収効率の高い施設を短期間で複数拠点に展開可能。
- ✓ 吸収量データをリアルタイムでブロックチェーン上に記録し、世界規模で環境効果を可視化。

本プロジェクトの優位性（強み）

本プロジェクトは、単なる構想段階にとどまらず、すでに実証フェーズを完了し、事業化に向けた基盤を確立しています。具体的には、マザーベジタブル培養技術を用いた均一化生産システムの構築を先行して完了し、マレーシアにおいて秘密裏にパイロットプラントが稼働中です。当該施設は24時間365日稼働し、CO₂の安定的かつ効率的な吸収を実証済みであり、技術の商業化に向けた確固たるエビデンスを有しています。

さらに、ASEAN諸国をはじめとする各国政府機関、ならびに複数の大学・研究機関との戦略的パートナーシップを既に構築済みです。これにより、研究開発から事業展開、規制対応に至るまで、国際的な協力体制が確立されており、他プロジェクトに比して極めて高いスピードとスケールでの拡張が可能となっています。

この「既に稼働している実証施設」と「国際的な官学連携」という二つの強みは、本プロジェクトの信頼性と実現可能性を裏付ける大きな競争優位性であり、IEO参加者にとっても極めて重要な投資判断材料となります。



運営の卓越性

我々の培養施設は太陽光発電および蓄電システムを統合し、完全自律運転を実現しています。この24時間365日の運転能力は、安定的かつ効率的なCO₂吸収を提供することが実証されており、商業的スケーラビリティの具体的証拠を確立しています。

環境インパクト

各生産施設は大気中のCO₂削減に直接貢献しながら、同時に酸素を生産します。我々の標準化された生産システムは継続運転を通じて一貫したCO₂吸収率を維持し、運営施設数に直接比例したスケーリングを実現します。

5. トーケン情報

基本構造

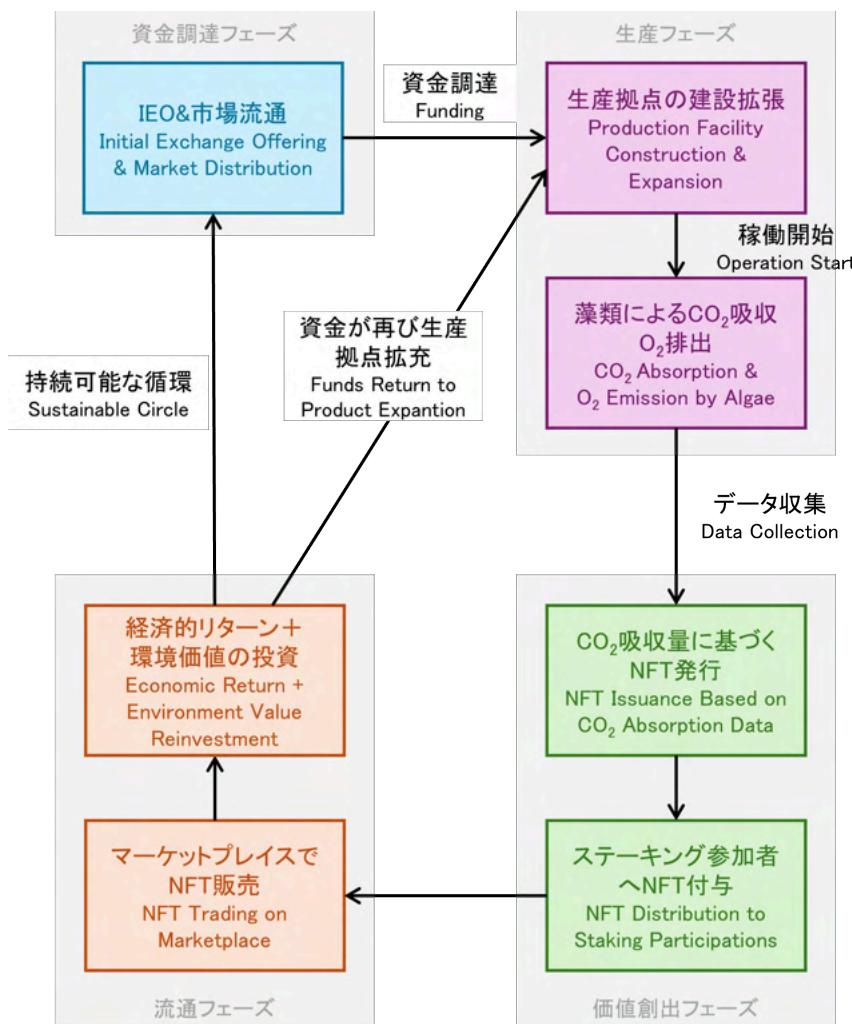
MOTHER VEGETABLES Token (MVT) は藻類培養生産施設と直接接続されたユーティリティトークンとして機能し、以下の核心的ユーティリティを提供します：

資金調達手段：IEOおよび市場流通により、世界各国での生産拠点構築・拡張資金を調達。

ステーキング参加：投資家がMVTトークンを預け入れ、運営施設からの実際のCO₂吸収指標に基づくNFT報酬を受け取ることができるスマートコントラクトベースのステーキングプール。

NFT取引：CO₂吸収運動NFTはパートナーおよびオープンマーケットプレイスにて自由に取引可能であり、環境貢献検証と二次市場取引による経済的価値の両方を創出します。

エコシステムの循環モデル



投資家ベネフィット

- ・**透明性**：NFT取得を通じたブロックチェーン検証CO₂削減証明書。
- ・**収益機会**：環境インパクトNFTの二次市場取引機会。
- ・**成長ポテンシャル**：生産施設拡張およびNFT発行能力増加に連動した価値上昇。

トーケンエコノミクス (Tokenomics)

MOTHER VEGETABLES Token (MVT) 情報



トーケン名称

MOTHER VEGETABLES Token

ブロックチェーン

Ethereum

総発行量

10,000,000,000 (10 billion)

トーケン規格

ERC-20

ティッカーシンボル

\$MVT

コントラクトアドレス

0x●●●●

トークン配布

配布カテゴリ	比率	目的
IEO販売	10%	一般投資家向け配布
チーム配分	5%	開発・運営チームインセンティブ
アドバイザリープール	5%	戦略的パートナーおよび専門家報酬
リザーブファンド	80%	将来の事業拡張および戦略的開発

資本配置

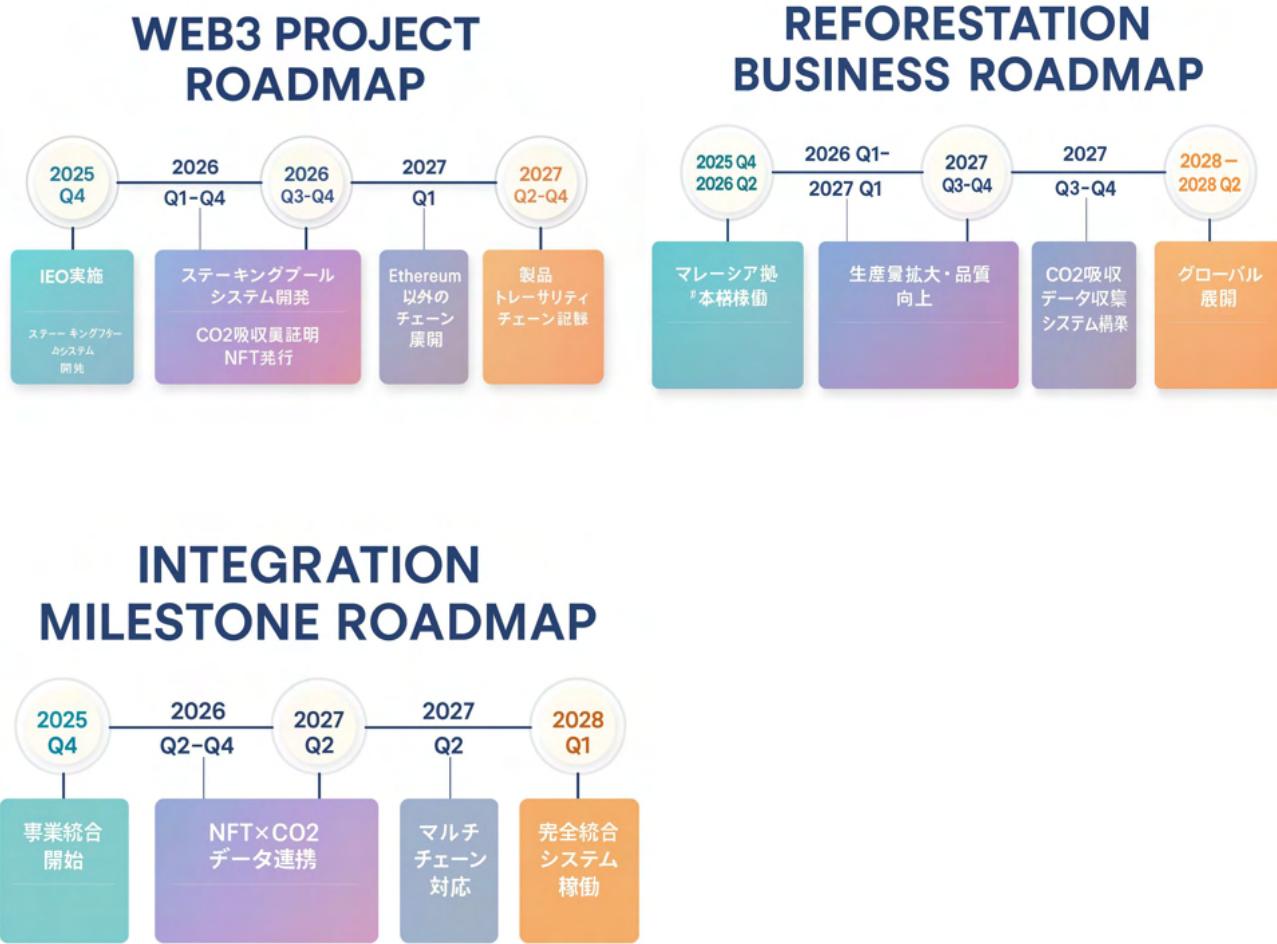
使用カテゴリ	比率	適用
生産施設建設	60%	新施設開発および既存施設拡張
システム開発	20%	プラットフォーム強化および技術進歩
マーケティング・事業開発	20%	グローバル展開および市場浸透

セキュリティ措置

ロックアップ期間

IEO販売トークンは販売完了後6ヶ月間のロックアップ期間の対象となり、価格安定性と長期投資家保護を確保するため、この期間中は取引および送金が禁止されます。

ロードマップ



リスク開示

本ホワイトペーパーに記載された情報は、当該プロジェクトの計画や目標を示すものであり、将来の成果や価値を保証するものではありません。トーカンの購入・保有・利用には以下のようないくつかのリスクが存在することをご理解ください。

市場リスク

暗号資産の価格は市場環境に大きく依存し、需要と供給、取引所の動向、投資家心理、規制の変化などにより急激に変動する可能性があります。トーカンの価値が大幅に下落する、あるいは無価値となるリスクがあります。

規制・法令リスク

各国における暗号資産や関連サービスに関する法規制は未整備または流動的であり、将来的な規制変更や新たな規制導入により、トーカンの利用や取引、プロジェクト自体が制限される可能性があります。

技術リスク

ブロックチェーン技術、スマートコントラクト、その他のシステムにはバグ、脆弱性、攻撃のリスクが存在します。これにより、資産の喪失、プロジェクトの停止、利用不能などが発生する可能性があります。

流動性リスク

トークンが十分な市場で取引されない場合、希望する価格や数量で売買できない可能性があります。また、上場している取引所の取引停止・廃止などにより流動性が著しく低下することがあります。

運営リスク

本プロジェクトは開発チームの活動継続に依存しており、チームの解散、人材流出、資金調達不足などにより、計画通りに進行しない可能性があります。

不可抗力リスク

天災地変、戦争、テロ、パンデミック、電力・通信障害など、当事者のコントロールを超える事象により、プロジェクトやトークンの利用に重大な影響が生じる可能性があります。

その他のリスク

本ホワイトペーパーに記載し得ない予期せぬリスクが存在する可能性があります。トークンの購入や利用を検討される際は、ご自身で十分な調査・分析・専門家への相談を行い、自己責任のもとで判断してください。

法的通知

著作権： © 2025 MOTHER VEGETABLES FOUNDATION. All Rights Reserved.

免責事項：本文書は情報提供のみを目的として作成されており、投資助言や販売推奨を構成するものではありません。暗号資産投資には実質的なリスクが伴います。投資判断は個人の裁量と責任において行われる必要があります。

更新：本文書は技術的および事業的発展に応じて更新される場合があります。最新版は公式プロジェクトチャネルにて入手可能です。

MOTHER VEGETABLES PROJECT

地球最初の生命体による地球再生プロジェクト

Version 1.0.0 | 2025年9月